

— 本 編 —

はじめに（海士町の確かな明日に向けて）

海士町は、島根半島の沖合い約 60km の日本海に浮かぶ隠岐諸島の中ノ島からなる町である。面積 33.5k m²、世帯数 1,114 世帯、2,502 人、特に高齢人口は約 40% に及ぶ。豊かな海産・農畜産に恵まれる一方、離島という地理的条件から、極端な少子高齢化と人口減少が進む。加えて、地方交付税減額による財政状況の悪化などの問題を抱え、島自体の存続の危機に晒されていた。

平成 14 年、山内現町長が就任し、町を挙げての行財政改革と地域づくり活動が開始される。町職員自らが給与の自主減額提案・実施する行財政改革を進める一方、新たな産業創出、未来を支える人づくりの 3 大施策を進める。離島というハンディを克服する為、地産地消の拡大、高付加価値化・首都圏への販売展開にこだわり、流通促進の場として、フェリーターミナル施設「キンニャモニャセンター」を整備する。加えて、鮮度を保つ新しい凍結技術（CAS）を導入し、運営主体として第三セクター「(株)ふるさと海士」を設立、雇用の増大と定住促進を図る。近年の積極的施策により、平成 16～18 年度の 3 カ年、70 世帯・130 名前後のいわゆる「ターン者」を中心に定住する。島外から募集した「商品開発・農畜漁業研修生」や、地元民間事業者等の協力を得て、地域ブランド商品「さざえカレー」や「いわがき“春香”」「海士ノ塩」「島生まれ、島育ち 隠岐牛」が生まれている。

また、未来を支える人づくりとして、人間力推進プロジェクト（平成 17・4）チームを創設する。【自立心の育成】【海士らしい・新しい価値観の醸成】【郷土愛の育成】をコンセプトに、東京国立市（一橋大学）との交流、新宿日本語学校仏人サマースクール開校、アドベンチャーキャンプ、キャリア教育（職場体験）、修学旅行、井原市児童交流、若者島体験塾（ニート層対象）等々様々な人づくり・交流事業が実施される。

このような多岐にわたる活動実績により、本年度、都市と農山漁村交流を通じ新しいライフスタイル 特色ある滞在型モデルの確立「島まるごと人間力向上プログラム 共創・共生社会に向けて」を提案し、地域の活性化を目指す「共生・対流の社会実験事業」のモデル地域として指定される。

図 0-2 隠岐・海士町（中ノ島）



図 0-1 位置・アクセス図

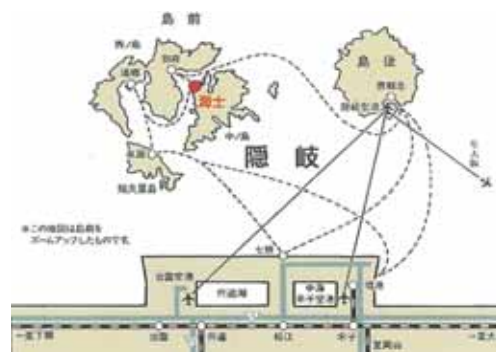


図 0-3 中核拠点と地域ブランド群

キンニャモニャセンター



CAS



サザエカレー/春香



隠岐牛/塩

